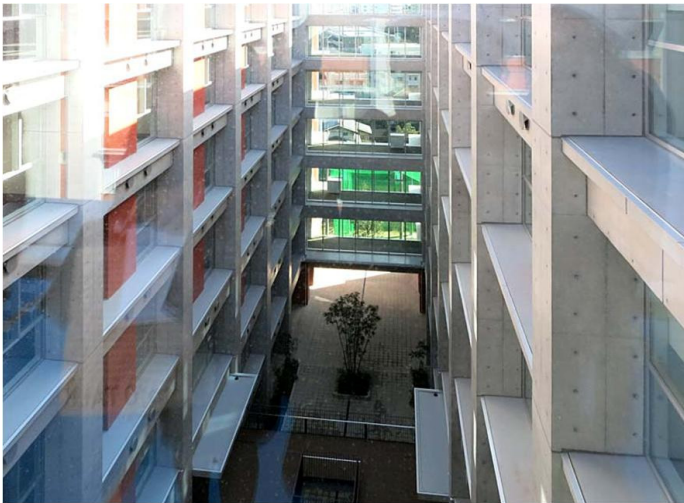


外観



建築家アントニン・レーモンド氏の自然との調和を図る設計コンセプトに則り、八事丘陵の名古屋キャンパスに立つ新設のQ棟。上階からは名古屋市内を一望できる眺望のよい立地にある。

内観



吹き抜けをはさみ、南北に教室棟が向かい合う、外光を取り入れやすいレイアウト。明るく開放感に満ちた教育環境を提供する。

3F 男性トイレ



大教室横に位置するトイレは、混雑緩和に配慮し器具数を他フロアよりも多数確保している。汚れやすい小便器下には、足元には尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減するハイドロセラ・フロアPUを設置。

7F 男性トイレ



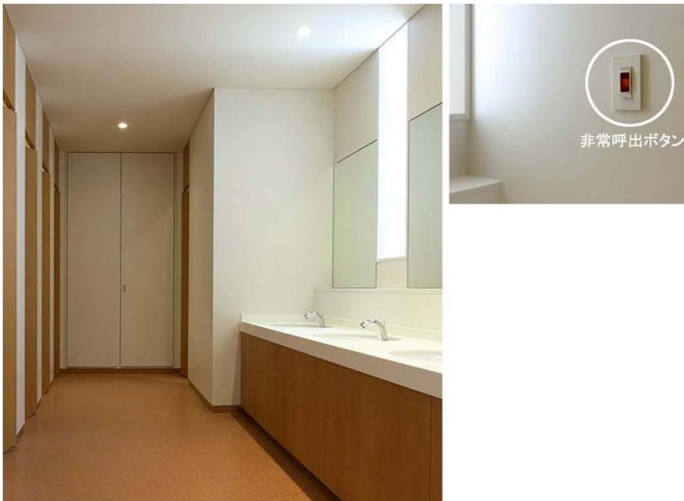
洗面スペースの延長上にカウンタースペースを設け、女性トイレだけでなく、男性トイレにも身だしなみを整えるコーナーを整備。休み時間などの集中利用時にも、空間・設備を効率的に使えるように配慮。

1F トイレ入口



女性トイレ内は、防犯対策として、大便器ブース、洗面コーナーに非常呼出ボタンを設置し、作動時には女性トイレ入口のランプが点灯するしくみ。

1F 女性トイレ



洗面カウンターの個別化粧鏡の間には、窓が設置され、外からの明るい光が差し込む明るい空間。洗面コーナーの壁面にも防犯性に配慮して、非常呼出ボタンを設置。

7F トイレ入口



床から天井までの全面ガラスによりたっぷりと外光を取り入れる、明るく開放的な廊下に面したトイレ入口。

7F 女性トイレ



洗面カウンターの延長部とカウンターの向かい側に別途設けられたパウダーコーナーは、休み時間などの集中利用時に効率的な利用が可能。

1F 男性・女性トイレ



白を基調とした清潔感のある内装。フロアカラーを男女で使い分け、異なる雰囲気を出している。幅広い利用者を想定し、男女ともに1ヶ所は手すりウォシュレット付の大便器ブースを設置。

1F 多機能トイレ



さまざまな身体状況の方に利用に配慮し、建物内に1ヶ所設けられた多機能トイレには、パブリック用折りたたみシートも設置されている。

建築概要

名 称	南山大学 名古屋キャンパス Q棟
所 在 地	名古屋市昭和区山里町18
施 主	学校法人南山学園
設 計	株式会社日本設計・株式会社大林組 南山大学設計共同企業体
施 工	株式会社大林組
竣 工 年 月	2017年2月

水まわりの特長

<建物の特徴>
「南山大学」は、カトリックの修道会である神言会を母体とする学校法人南山学園が運営。男女共学の総合大学としては、中部唯一のカトリック系ミッションスクールである。1949年の建学以来、「キリスト教世界観に基づく学校教育」を理念に、現在では、8学部17学科、7研究科を擁する総合大学へと発展した。2017年、全学部・全学科を名古屋キャンパスへ統合し、すべての教育資源をひとつの場所に集約することで、より質の高い教育と研究の提供を図る、学部横断的な教育を展開。他学部・他学科間での交流が活性化し、学生・教員同士がお互いの違いを認め合い、協力しながら高め合っている環境を創出する。初期の名古屋キャンパスを設計した、著名な建築家アントニン・レーモンド氏の設計コンセプトを継承しつつ、新教室棟の新設など時代に合わせた教育環境を整えている。

<トイレの特長>
今回新設のQ棟のトイレも、本学の教育理念に基づき、華美にならない、シンプルかつ機能的な空間を実現している。大便器・小便器ともに壁掛タイプを採用するなど汚れやすい便器まわりは清掃性に配慮した器具を選定。洗面コーナーは男女ともに身繕いできるスペースを、場所に応じて設けており、教育環境にふさわしい利用者の快適性も確保している。